

29年度 見附市教育センター 第1回 4時から夢塾



日時：平成29年5月11日(木)14:20～16:30

会場：見附市立南中学校1年2組教室・会議室

テーマ：「中学校英語（授業改善）」

「入門期の中学校英語授業」について、示範授業と講義を行いました。示範授業では、視覚教材、聴覚教材など様々な感覚を刺激する教材を使って活動を行い、英語で仲間と交流することはとても楽しいことだということを生徒たちに実感させていました。講義では「対話」の工夫で、生きた言葉になることを学びました。

講師：小林 豊 様

（十日町市教育センター嘱託指導主事）



(1) 示範授業(1年2組)

川沼教諭とティームティーチングで授業行いました。視覚教材、聴覚教材を使って活動を行いました。二人の教師のモデル対話は、生徒たちの活動を生き生きしたものしていました。生徒たちは、授業後、とても楽しく英語の学習ができた満足していました。

(2) 講義

◎インタビュー活動を楽しく、意味ある活動にするための工夫

- ①「相手のメッセージに確認の言葉を入れる」「確認の言葉(合いの手)を入れる」習慣を身に付けると、対話はぐんと生き生きしてくる。
- ②しっかりと『相手の目を見て』『はっきり・大きな声で』『笑顔で』で活動することを基本として進めると対話がうまく進むようになる。
- ③教師二人によるモデル対話を行うことで、生徒に「なるほど」と納得させることができ、対話が生き生きしてくる。

◎ワークシートを使い、インタビュー活動を楽しく、意味ある活動にする工夫

- ①CDを聞きながら、順番に点線をたどっていく活動(スポーツ編・フード編)

出典「くちぐせ音ペンF.I.A リズムトレーニング教材」(株)地球人村

※機械的なドリルであるが、次のよさがある。

○Listen and Doが基本であり、聞く目的がある。○ルーチン化することで時間が節約される。○2分程度の短時間ワークがあるが、情報量が多い。

- ②★自分の”分身”を探せ★活動(スポーツ編・フード編)のよさ

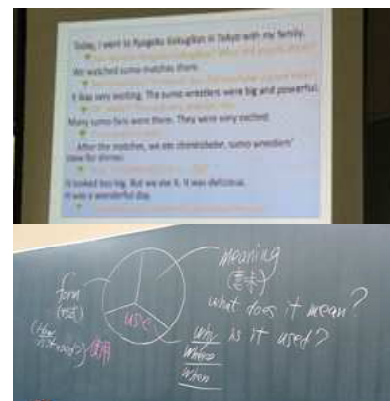
○自分が選択するため、交換されるメッセージが付加される。○シンプルである。○相当量の英語使用(発話量)が期待できる。○ルーチン化で時間が節約される。○「探し出し」「確認する」が目的になり、その課題を解決することがねらいであるため、活動意欲が高まり、継続が期待できる。

◎提案「前のセリフ(言葉)を重ねる」

○対話では、前のセリフ(言葉)を重ねることによって、相手のメッセージを確認する間合いができ、生きた言葉での会話に近づく。

○教科書には、音がいっぱい詰まっている。「サンキュー(ありがとう)」は単純な言葉なのだけれども、そこには、様々な意味が込められているし、話し手のメッセージが込められている。

○from(形式) meaning(意味) use(使用)の3つの中で、特にuse(使用)を大事に考えていく。



<参加者の声> 「話題の一貫性と活動の連続性」ということで、生徒の興味を持続させるようなしかけと、ねらいに到達させる活動の流れが素晴らしい授業でした。「音で勝負」、「コミュニケーションは楽しい気持ちを育てる」、「中学校に進学してから任せる」というお言葉を聞き安心しました。2020年に向けたプレッシャーから職員を解き、英語に向かう気構えをつくるのが大切だと思いました。